

「緩やかな紐帯」の形成にむけて： 出所者支援ネットワークの挑戦

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 包摂型社会研究会 公開日: 2018-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 掛川, 直之 メールアドレス: 所属: 大阪市立大学, 日本学術振興会
URL	https://doi.org/10.24544/ocu.20180703-006

Title	「緩やかな紐帯」の形成にむけて:出所者支援ネットワークの挑戦
Author	掛川, 直之
Citation	関西都市学研究. 2 巻
Issue Date	2018-03-20
ISSN	2432-7239
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	包摂型社会研究会
Description	インクルーシブコミュニティレポート(2)

Placed on: Osaka City University Repository

「緩やかな紐帯」の形成にむけて ——出所者支援ネットワークの挑戦

掛川 直之（大阪市立大学・日本学術振興会）

1 出所者支援ネットワーク（@東海）の設立

刑罰を科されるようなことをした〈悪い奴〉に、支援など必要なのか。「犯罪者と一緒にするな」。刑罰の執行を終えてもおお「刑余者」と差別的なまなざしを注がれることの多い「出所者」といわれる人びと。しかしながら、かれらが罪に問われた原因を探っていくと、その背景には、深刻な貧困や社会的な排除が大きな要因として横たわっている驚くほどに多くの事例に直面する。現に、生活困窮者支援の現場では、福祉的な支援があれば、罪を犯さなくてもすんだ人たちの存在が多く確認されている。にもかかわらず、出所者の支援にとりくむソーシャルワーカーの数はごく少数の一部に限定されており、孤軍奮闘せざるを得ない実情がある。そこで、私たちは、ささしまサポートセンター事務局長の橋本恵一さんたちと一緒に、一昨年度から少しずつ準備をはじめ、昨年度から本格的に「出所者支援ネットワーク（@東海）」というとりくみをはじめた。

2 連続学習会『ソーシャルワーカーのための出所者支援入門』の開催

刑務所等から出所してきた人びとを支援することも、生活に困った人びとを支援することも、その実、大きな違いはない。だが、出所者は、刑事司法という強大な力の下に、刑務所の「外」の世界とは断絶された、特殊なルールと環境のなかでの生活を強いられていた経験を有する。そのため、出所者支援にとりくむ人びとは、拘禁経験が与える影響や刑事司法手続きの渦中に身をおくことによって奪われていく諸権利について、理解を深めておく必要がある。そこで本年度は、『ソーシャルワーカーのための出所者支援入門』と題して、これから出所者支援にとりくんでいこうと考えているソーシャルワーカーを主な対象とした連続学習会を実施した（大阪市立大学都市研究プラザ先端的都市研究拠点および貧困研究会貧困研究奨励基金による助成を受けて実施）。

まず、刑事司法制度の全体像を把握したうえで、刑務所のなかでの生活を理解し、出所後、どのような制度を活用していけばいいのか、どのように出所者と対峙していけばいいのか、ということそれぞれの領域における第一人者を講師にむかえ、多様なバックグラウンドを有する参加者（刑務所の社会福祉士、地域生活定着支援センターの相談員、生活困窮者等の支援にとりくむソーシャルワーカー、福祉事務所のケースワーカー、弁護士、臨床心理士、学生など）とともに議論を深めている。このようなとりくみをはじめてから2年が経過するなかで、愛知県を中心に、岐阜県や三重県などからも参加者を得、愛知県のささしまサポートセンターを基点とする出所者支援の緩やかな紐帯が築かれつつある。

3 出所者支援ネットワーク（@京阪）へと波及

昨年度からの東海圏でのとりくみを聞きつけた京都のホームレス支援の現場から「近畿圏でも類似のとりくみを」との声があがり、本年度は、姉妹団体「出所者ネットワーク（@京阪）」を設立し、その活動に幅を広げている。「人と人とが会話してつながれる市場（バザール）のような場をつくりたい」という想いがこめられた京都・今出川のバザールカフェを会場に、まずはとにかく「つながる」ことを目標に、『しゃばカフェ：出所者支援を考える～つながろう編～』を開催している（共生社会を創る愛の基金の助成を受けて実施）。東海圏での活動が近畿圏へと波及したかたちである。

4 「緩やかな紐帯」が〈支援〉を支える

出所者支援という領域は、ソーシャルワークのなかでも新しい領域であるといえる。それゆえに、さまざまな支援のあり方を、ボトムアップ型で模索していく必要がある。出所者が出所者ではなく、ひとりの隣人として、生活していくための「〈脱〉出所者支援」のあり方を、実践のなかで考え続けなければならない。